

『見てびっくり 野菜の植物学』

—ゲッチョ先生の野菜コレクション—

盛口満 文・絵 少年写真新聞社 (2012年)



タイトルの通り、見てびっくり！
の本です。そもそも、野菜なんて夕食の皿の上に切り刻まれた姿しか見ていなかったり、せいぜいがピーマンだとか人参のように食べる部位だけしか目にしていません。でも、当たり前のことですが野菜たちは植物です。植物であればもちろん、花も実も、茎も葉も根もあるのです！

私たちは野菜のお世話になりながら、なんとその全体像を知らないことでしょう。バナナを食べながら、これは実なのに、一体種はどこに行ったのだろうか？なんて考えたところがありますか？バナナだって、ご先祖様には種があったのです。今我々が食べているバナナは、種がなくとも大きな実ができるように改良されているのだとか。沖縄にあるバナナの仲間、イトバショウには種が残って

います。これは繊維をとるために栽培されているようですが、食べられるのでしょうか？ちょっと食べてみたい気がします。

同じ野菜でも、見た目がずいぶん違うものがあります。日本では手のひらサイズのナスも、国によってはミニトマトのように小さかったり、すごく長細かったり。色もさまざまです。長い時間をかけて遠い国に伝播していく中で、その土地の食べ方にあった野菜に変身していったのでしょう。

植物学、というタイトルからちょっとこわごわ開いた本だったのですが、きれいで精緻な絵で説明してくれているのでとても分かりやすいです。自然の多様性にびっくりしたり、納得したり。

これからは野菜を食べながら、その野菜の違う部位や、その野菜が我が家に来た長い道のりについて思いをはせることでしょう。文化という調味料が加わって、野菜の味にも深みが増すかもしれませんね。

(小川)